

[課程－ 2]

審査の結果の要旨

氏名 櫻谷 あすか

本研究は、日本の労働者を対象としたジョブ・クラフティング介入プログラムを作成し、本プログラムのワーク・エンゲイジメント向上に対する効果を無作為化比較試験で検討したものであり、下記の結果を得ている。

1. 本プログラムは、ワーク・エンゲイジメント低群 ($UWES \leq 3$) において、有意傾向に、介入群のワーク・エンゲイジメントを向上させた ($p=0.06$; 3 か月後の $d=0.34$)。本結果から、ワーク・エンゲイジメントの低い労働者において、本プログラムがワーク・エンゲイジメントの向上に有効な可能性が示された。
2. 本プログラムは、年齢低群 (36 歳以下) において、介入群のジョブ・クラフティング (合計得点、**task crafting**、および **cognitive crafting**) および仕事のパフォーマンス (HPQ) を有意に向上させた ($p=0.03-0.048$; $d=0.22-0.39$)。若い労働者 (36 歳以下) において、本プログラムが、ジョブ・クラフティングおよび仕事のパフォーマンスの向上に有効な可能性を示すことができた。
3. 本プログラムは、ジョブ・クラフティング低群 (**Job crafting scale** ≤ 5) において、介入群のワーク・エンゲイジメントを有意に向上させた ($p=0.04$ 、3 か月後の $d=0.33$)。本結果から、ジョブ・クラフティングをあまりしていない労働者において、本プログラムが、ワーク・エンゲイジメントの向上に有効である可能性が示された。
4. 本プログラムは、管理監督者において、ワーク・エンゲイジメントを有意傾向に減少させ ($p=0.08$ 、6 か月後の $d=-0.81$)、一方、教師および事務職においては、有意傾向に上昇させた (それぞれ、 $p=0.06$ 、3 か月後の $d=0.52$; $p=0.09$ 、3 か月後の $d=0.52$)。本研究は、職種によって、本プログラムのワーク・エンゲイジメントに対する効果が異なる可能性を示唆した。

以上、本論文は、本研究において開発されたジョブ・クラフティング介入プログラムのワーク・エンゲイジメントに対する効果を検討し、労働者を対象にジョブ・クラフティング介入プログラムの効果を無作為化比較試験で検討した初めての研究である。今後の産業精神保健における一次予防に重要な貢献を果たすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。